

『旧大湊水源地水道施設』 ～旧海軍の水道施設～が

国の重要文化財指定になります



この度、むつ市宇田町・桜木町にある『旧大湊水源地水道施設』が、我が国にとって歴史上価値の高いものとして、国の重要文化財に指定されることとなりました。この施設は、東北地方で最初に建設され、近代水道施設史上でもその価値の高さが評価されたものです。また、石造の構造物はそれぞれ特徴的で非常に精緻な造りであり、明治後期における石造河川構造物の技術水準の高さを示すものです。原材料には近くの抱山から大量な安山岩を採取して活用しています。この水道施設は、昭和59年にむつ市文化財、平成5年には県重宝の指定を受け、昭和60年に近代水道百選に選定、平成13年に土木遺産に認定されています。

水源地公園の象徴的な沈澄池堰堤は、これまで日本最古のアーチ式ダムと思われる大湊水雷団（おおみなとすいらいだん）明治38年に大湊要港部、昭和16年に大湊警備府に改組）の艦船補給用水の確保を主な目的として釜臥山を水源とする宇田川に建設されました。

【文化財の種別】重要文化財

【名称および員数】

旧大湊水源地水道施設 3所

- ・第一引入口
- ・沈澄池堰堤
- ・乙水槽

- 附
- ・大近川取水所
- ・甲水槽

◇附とは、他の構造物と一体となって、価値を形成する付随的なもの。

【沿革】

旧大湊水道施設は、明治35年に開庁した大湊水雷団（おおみなとすいらいだん）明治38年に大湊要港部、昭和16年に大湊警備府に改組）の艦船補給用水の確保を主な目的として釜臥山を水源とする宇田川に建設されました。

この施設は、明治35年竣工の第一引入口、同42年竣工の沈澄池堰堤および43年竣工の乙水槽で構成されています。第二次世界大戦後は、旧大湊町の水道施設として引き続き使用されてきましたが、昭和51年に廃止され、現在は水源地公園施設として利用されています。

○沈澄池堰堤

明治42年10月に竣工。
水道施設の中でも特に象徴的な構造物で、間知石を多量にしきつめた重力アーチ式石造堰堤には4箇所の排水溝があり、正面中央には取水塔が設けられています。沈澄池の能力は5,000 tで、艦船、海軍1,000人に供給されていました。
また、大近川（現大湊川）からの導水と、宇田川からの流水に含まれる土砂を沈澱させ良質の水だけを乙水槽に送水する機能をもっていました。



【水源地公園略図】



○乙水槽

明治43年に竣工。
沈澄池から引かれた水を濾過池と艦船給水所の2方向に分岐するために造られた円筒形の煉瓦造構造物です。水槽の上には正八角形平面の木造上屋を設けています。



○第一引入口

明治35年に竣工。
構造物の中では一番古く、横須賀鎮守府大湊水雷団の開庁と同時期に造られました。宇田川から取り入れた流水の上澄みを同時期に竣工した貯水池に送水していました。
宇田川の中流域に位置する一辺3mの枡形の石造構造物です。



○附：甲水槽

明治43年に竣工。この水槽は沈澄池南側に造られた大近川からの導水が沈澄池に入る前に経由する面積4.75㎡、内径2.46mの煉瓦造りの構造物です。



○附：大近川取水所

明治43年に竣工。沈澄池より800m西南に位置し、取水した水を沈澄池まで管路で送水していました。現在は、大湊川中流沿いに面積9.35㎡の石積の建造物が現存されています。

☆祝!! 重要文化財指定
『旧大湊水源地水道施設』

〈詳しくは〉
市生涯学習課
☎22-11111内線3142